

事業番号	事務事業名	シニアスクール推進事業費	所管課名	生涯学習課	令和 3 年度課長名	黒瀬 豊
05975	政策名	3 創造豊かな教育・文化の里づくり	係名	主任	担当者・シート作成者	ソーター・クリstof
	施策名	32 生涯学習の推進	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度 ) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	おおむね50歳以上の町民が鏡野中学校で週1回(火曜日)、国語・社会・保健体育・美術などの教科を学ぶ。主な事務としては、①カリキュラムの作成、②講師の手配、③学校との連絡調整、④担当事務等がある。	平成14年度に鏡野中学校建設検討委員会で、新校舎には地域の人が入りやすく、集まることができる部屋を設けてほしいとの声が出たことがきっかけとなる。その頃、岡山市岡輝中学校のシニアスクールを知り、町教育委員会が先進地視察を行い検討した結果、鏡野中学校を会場に平成16年8月30日、シニアスクールを開校。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 50歳以上の自力通学可能な町民	ア 50歳以上の町民人口	人	見込 実績	7,200 7,122	7,200 6,947	7,200 6,827	7,000	7,000
イ 鏡野中学校の生徒	イ 鏡野中学校生徒数	人	見込 実績	313 313	313 313	313 313	343	350
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 高齢者にも学習してもらおう	ア 通学している人数	人	目標 実績 達成率	15 9 60.0%	15 12 80.0%	15 12 80.0%	0	15 80.0%
イ 生徒に学ぶ姿勢を育んでもらおう	イ 鏡野中学校生徒数	人	目標 実績 達成率	313 313 100.0%	313 313 100.0%	313 313 100.0%	343	350 89.4%
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア カリキュラムの作成	ア カリキュラムの作成件数	回	目標 実績 達成率	90 94 104.4%	90 62 68.9%	90 2 2.2%	0	90 2.2%
イ 学校との連絡調整	イ 学校との連絡調整回数	回	目標 実績 達成率	10 14 140.0%	10 16 160.0%	10 3 30.0%	0	10 30.0%
ウ 講師の手配	ウ 手配した講師の人数(実人数)	人	目標 実績 達成率	16 16 100.0%	16 14 87.5%	16 15 93.8%	0	15 100.0%

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	10	項	06	目	01	大事業	中事業	01	01	予算上の事業名	05975			
	一般会計		教育費		社会教育費		社会教育総務費	10					シニアスクール推進事業費				
予算(千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	決算 (千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比				
国庫支出金							国庫支出金										
県支出金							県支出金										
町債							町債										
その他特財	934	541	46	893	893	-495	その他特財	658	436		0	500	-436				
一般財源	0	0	0	0	0		一般財源	0	0	28	0	0	28				
合計	934	541	46	893	893	-495	合計(A)	658	436	28		500	-408				
財源名称	生涯学習課基金繰入金						従事正職員人数	1	1	1	1	1					
	シニアスクール受講料						延べ業務事務時間	298	290	30	290	290	-260				
							人件費計(千円)(B)	1,043	969	101	992	992	-869				
	最終予算額		46 千円		予算執行率		60.8%	トータルコスト(A+B)	1,701	1,405	129	992	1,492	-1,277			
主な 支出事業内容 (予算)	報償金				800 千円				主な 支出事業内容 (決算)	報償金				8 千円			
	消耗品費				45 千円					消耗品費				5 千円			
	通信運搬費				11 千円					通信運搬費				6 千円			
	保険料				15 千円					保険料				1 千円			
	委託料				9 千円					委託料				0 千円			

事業番号	05975	事務事業名	シニアスクール推進事業費	所管課名	生涯学習課
------	-------	-------	--------------	------	-------

#### 4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
R3は入学式は出来たが、その後は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休校になった。シニア生はR2と同じメンバーだった。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
開設後は週2回授業を実施していたが、現在では時間数を増やした週1回で行っている。希望者多数の場合、入学選考基準を設けた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
シニアスクール生からは「休校になったのは残念だが仕方ない」や「工夫してまたシニアスクールを開催してほしい」といった意見が多く聞かれる。

#### 5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	50歳以上の住民を対象とした事業で、入学許可選考基準など平等に生涯学習の機会を提供しており、政策体系の生涯学習の推進に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	学校施設の使用、授業体制の協議などは町で行うべきであると考え、今後考えていかななくてはならないものである。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	当初の目的から言えば適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	現時点における状況なら成果としては目的水準に達している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 影響がない <input type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	現在、子どもたちへ高齢者の学びの姿を見せること及び交流ができないので、影響がない。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	コロナ禍の中で現状のやり方だと実施できない。工夫して改善を考えなければならない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	生徒からの受講料の徴収で経費の一部に充てており、節約しながらの実施をしているため削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	職員の同行は不要ではないか。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町内全域に広報で公募しており、公平・公正に対応できている。

#### 6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																								
A 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため休校になった。これからの実施も厳しいと考えられる。工夫して続けるか、事業を廃止するかを考えなければならない。																								
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																									
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																									
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																									
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																								
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 学校施設の使用及び毎年の生徒数の確保が問題となってくる。																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持																									
	低下																									
学校施設の使用、生徒数同様、講師の高齢化も課題となる。																										